

「街を4分割して持ち帰る(4)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

用意した切断テーブルに、子どもたちがすっかり「更地」になったスチレンボードを順番に持ってきた。活動を始めたばかりの時に、土地に道路や鉄道だけを敷設した姿である。



このように長机の間の「溝」に、ボードの中心がくるように置く。ボードの横の長さは 90cm なので、45cm のところに印をつけて、私が一気に切断した。この時点で「やっぱり切ってほしくないな・・・」と最後の抵抗を示すグループもあったが、それでは家に持ち帰ることはできない。ブーブー言う前に、スッパリ切ってしまったほうが良い。



道路も川も線路も、幾何学的に切断されてしまう。街の中心部には、重要な道路や駅があるグループが多いのだが、それもお構いなし。スチレンボードは発泡スチロールのように、余計なカスが出ないのが良い。



更に2分割して、ボードは「見事に」4等分された。「うわー、ぼく、どれ持って帰ろうかな？」このあと各グループで相談して「どの土地をもらうか」を決めることになった。



土地の「所有権」が決まると、さきほど一時撤去した建物や乗り物を設置し、「再開発」が始まった。グループによっては、建物の争奪戦になっていた。



「再開発」が終了した街。これが一人分の「作品」4分割したとはいえ、結構大きい。これを持ち帰る。